

事故を防ぐために

発火や火災に注意

● キャンドルやポットなどの上に燃えるものがあると火が移り火災につながる場合があります。上や周りに燃えるものは置かないようにしましょう。

● キャンドルホルダーやアロマポットが突然割れたり、予想以上に高熱となることもあります。ろうが垂れたり高熱となると、下の素材を焦がしたり溶かしたりします。置き場所に注意するとともに、断熱性の高い受け皿も使いましょう。

● 同じ製品でも、燃焼の状態や燃焼時間は各々異なります。火をつけたままその場から離れたり、寝てしまったりしないようにしましょう。使用後は火が完全に消えてことを確認しましょう。

身体への影響も配慮

● 香りや匂いは、品質の良し悪しに関係なく人によって合う合わないがあります。身体に塗ったり入浴に使用するエッセンシャルオイルも同様です。合わないと感じたら速やかに使用をやめましょう。

● やけどに十分注意しましょう。燃焼中や消火の直後は容器の一部が熱くなっています。容器に触るときは注意しましょう。

オイルのついた洗濯には注意

● オイルがしみこんだタオルなどは洗濯しても乾燥機での乾燥はせず、自然乾燥しましょう。



● 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

● 本内容の一部について、詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、

被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人

国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2009年11月発行

くらしの危険



Number

292

アロマグッズの事故

アロマテラピーは、香りを楽しんだり、ろうそくやランプの灯とあわせてリラックス効果を得られるために、大変人気があります。

手ごろな値段のアロマグッズもたくさん販売されており、

お部屋で手軽にアロマテラピーを楽しむ人も増えています。

その一方で、扱い方を間違えると

大きな事故も起きています。

使い方に注意して

秋の夜長を楽しみましょう。

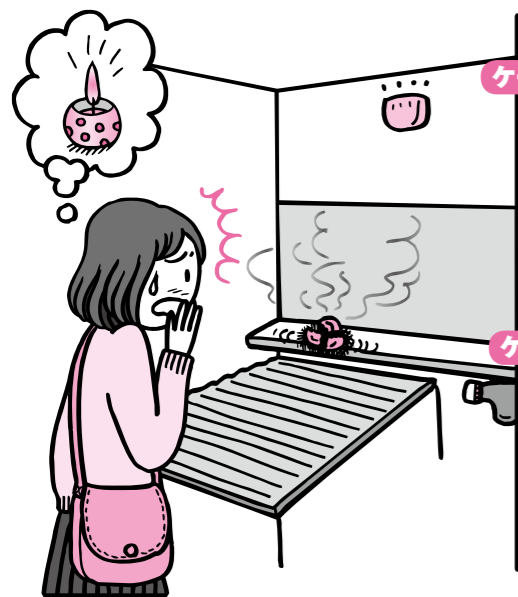


アロマグッズの事故の傾向

危害情報システムには、2005年度から2009年度の5年間にアロマグッズの事故が40件ほど寄せられています。キャンドルやアロマポット、お香などにより家具を焦がしたり、

発火や火災となった例もあります。また、香りや精油によるかぶれや体調不良なども見られます。火を使うことによる危険性と、香りに対する個人差、自然オイルでも体質に合う合わないがありますので、注意が必要です。

こんな事故が起きています



アロマキャンドル

ケース 1 来客中にアロマキャンドルを洗面台の棚の上で使っていたら、プラスチックの洗面台が溶け、キャンドル受けのガラスカップが割れて陥入していた。
(20 歳代 女性)

ケース 2 プレゼントされたアロマキャンドルを浴室で使用。説明書には「1 時間ほどでろうがなくなり消える」と書いてあったので、そのまま炎を消さずに外出したら、ガラスが割れたらしく浴室が少し燃えてしまった。
(20 歳代 女性)

アロマポット

ケース 3 知人からもらったアロマポットを使用していたら、木製の机が焦げてしまった。焼け焦げを見つけたときは何が原因かはわからなかったが、焼け焦げの形状からアロマポットが原因とわかった。
(70 歳代 女性)



エッセンシャルオイル

ケース 4 ピュアエッセンスオイルを使用したところ、全身倦怠感、頭重感などの症状が出た。アロマオイルでこのような症状がでるものなのか。
(30 歳代 女性)



お香

ケース 5 近所の香木店でラベンダーの香りの三角錐の練香を買い、就寝前に着火したが、異臭で不快感を覚え夜中中耳鳴りが続いた。
(50 歳代 男性)



アロマテラピー用ろうそくの使い方への注意

東京消防庁の統計からもアロマテラピー用ろうそくが原因と思われる火災が増えていることから、東京都消費生活総合センターでは、平成 14 年にアロマテラピー用ろうそくの燃焼状態や容器の形状や材質に関して調査を行いました。

- ◎ 芯の長さや位置により、炎が大きくなったり容器側面に近づいたりして、容器表面の温度が異常に高くなるがあった
- ◎ 同じ銘柄であっても、同じように燃えるとは限らず、急激な温度上昇を起こすものもあった
- ◎ ヤシ殻製容器は、底部が家具等の変形を招く恐れもある約 190 度に達して焦げてしまったものもあり、ろうの上の可燃物を介して容器まで燃えるものもあった

東京都では、結果を公表するとともに、日本アロマテラピー協会などの業界団体へ事故防止のための製品及び表示の改善等について要望しています。

東京都「くらしの安全情報サイト」 <http://www.anzen.metro.tokyo.jp/>
東京消防庁 <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/kk/index.html>

アロマオイル等がしみこんだタオルが火災の原因に!!

アロマオイルなどのオイルがしみこんだタオルなどを洗濯し、衣類乾燥機で乾燥させていたところ、これが発煙・発火したと思われる事故が発生しており、経済産業省が平成 20 年 10 月に注意を呼びかけました。事故は、エステティックサロンやマッサージ店で起きていますが、家庭でも、オイルがしみこんだタオルなどは、絶対に乾燥機で乾燥させず、自然乾燥させるよう注意を呼びかけています。

オイルがしみこんだタオルなどは通常の洗濯では油分が完全に落ちず、衣類乾燥機で乾燥した場合、自然発火し火災につながるおそれがあるそうです。自然発火の原因は、洗濯後の衣類やタオルに残っている油分が乾燥による熱風で酸化し、乾燥中または洗濯後放置されている間に高熱を発することによるものです。



経済産業省 <http://www.meti.go.jp/press/20081028006/jiko.pdf>
http://www.meti.go.jp/product_safety/consumer/pdf/defend3.pdf